マイヅルテンナンショウ

ARISAEMA HETEROPHYLLUM

「マイヅルテンナンショウ」とはこんな植物です

分類

- サトイモ科テンナンショウ属の1種
- 学名　*Arisaema heterophyllum* Blume
- 舞鶴天南星

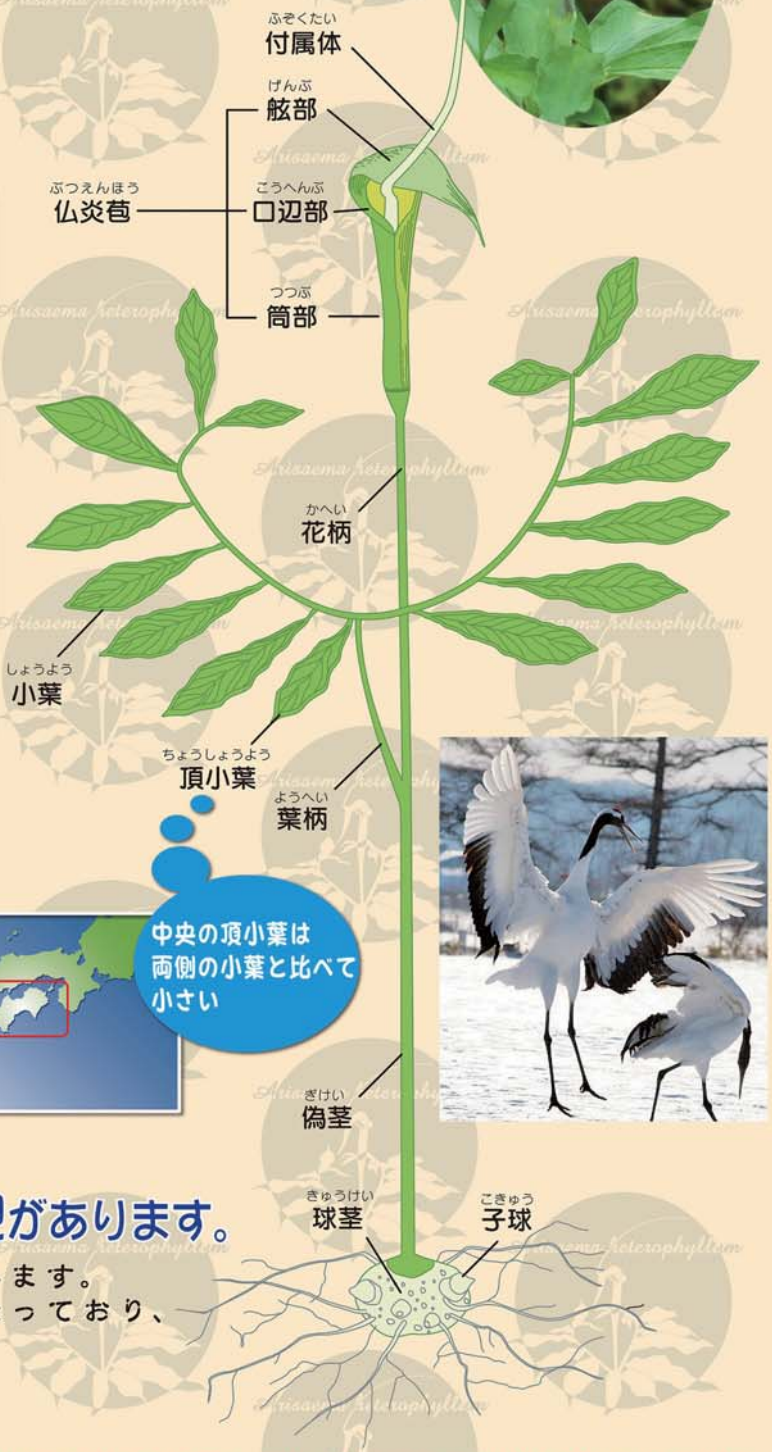
形態

草丈50～120ｃｍの多年草。葉は１個で「鳥足状」に数枚から20数枚の小葉をつけ、中央の頂小葉は両側の小葉と比べて小さいのが特徴です。花は5～6月に咲き、仏炎苞は緑色で一部紫色を帯びていて、舷部は卵形で先端は尾状に伸びます。付属体は長さ20～30ｃｍで、仏炎苞の外に長く伸びます。小葉の並び方と特異な花の姿から、あたかも、地上のツルが飛び上がろうと大きく羽ばたいた優雅な姿を想定して名付けられました。

分布

本州・四国・九州
朝鮮半島南部
中国・台湾

河畔林の林縁、山地の池の周囲や草地などに生育します。四万十川の水辺では、１万個体以上が発見され、全国有数の自生地となっています。



四万十川には日本有数の自生地があります。

環境省、高知県において絶滅危惧種になっています。
高知県の希少野生動植物保護条例の指定種になっており、
採取などが禁止されています。

マイヅルテンナンショウの自生地の保護

マイヅルテンナンショウは、かつて日本の冠水草原に広く分布していたと考えられます。近年、私たちの生活域の拡大などの要因によって住みかを追われ、かつての分布域の片隅に、かろうじて生き残ってきました。 四万十川辺の「マイヅルテンナンショウ」は四万十川の原風景です。わが国自生地保護のモデルとして、自生地の環境保全と種の保護増殖に努めましょう。

協力・写真提供：高知県立牧野植物園・国土交通省 四国地方整備局 中村河川国道事務所
協賛：（一社）四国クリエイト協会

マイヅルテンナンショウの会は身近にある様々な植物を知ることで自然への関心を高め、四万十川の良好な自然環境を未来へつなげる活動をおこなっています。